

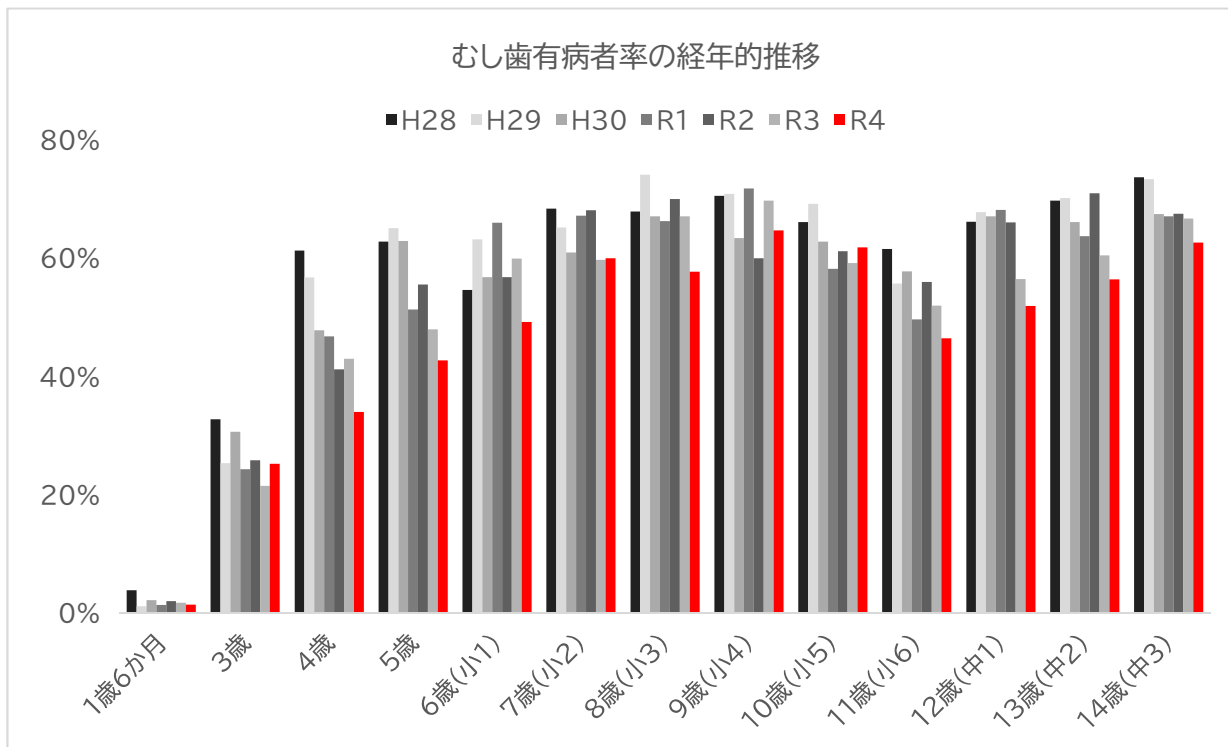
南島原市の子どもの歯科保健の現状と課題

出典:母子保健実績報告・学校保健会報(公立学校のみ)

1 南島原市の近年の状況を見てみました

(1) 経年的推移

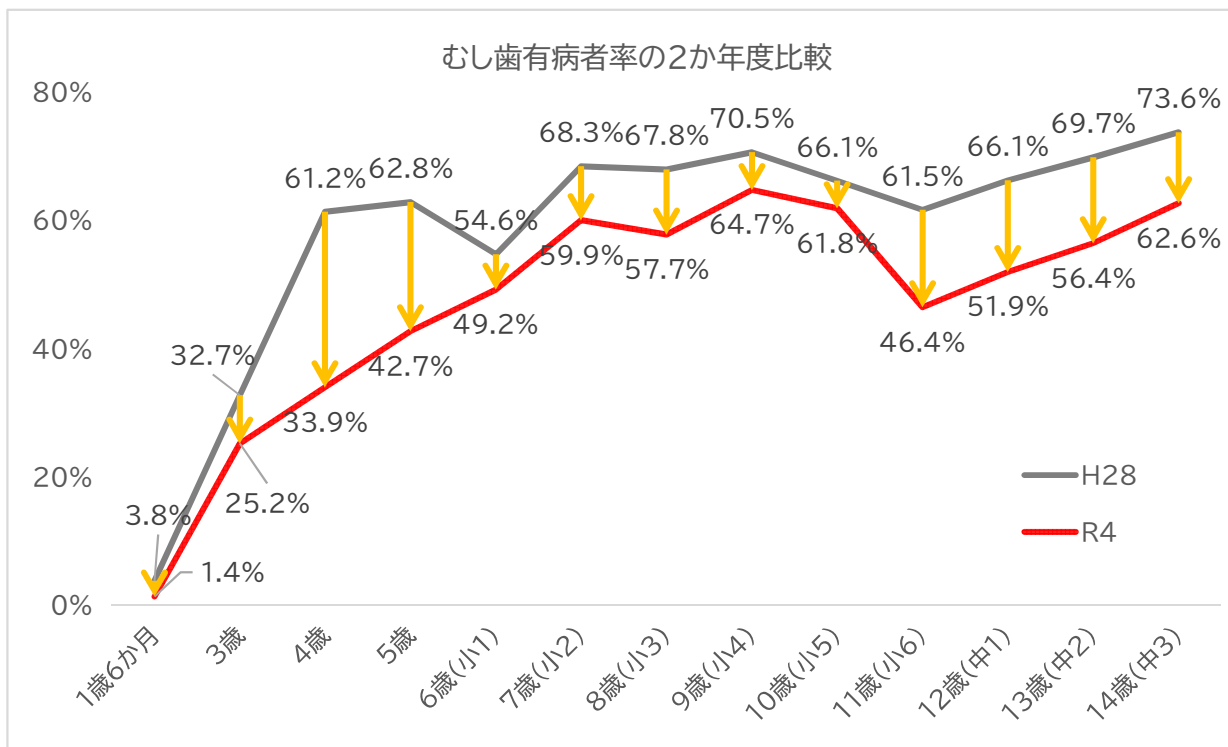
南島原市の子どものむし歯有病状況は、全年代で徐々に改善しています。



(2) 2か年度比較

南島原市の子どものむし歯有病状況について、平成28年度と令和4年度を比較したところ、全年代で改善していますが、特に4～5歳児や中学生の改善は著しく、平成25年度から開始した団体のフッ化物洗口の成果とも言えます。

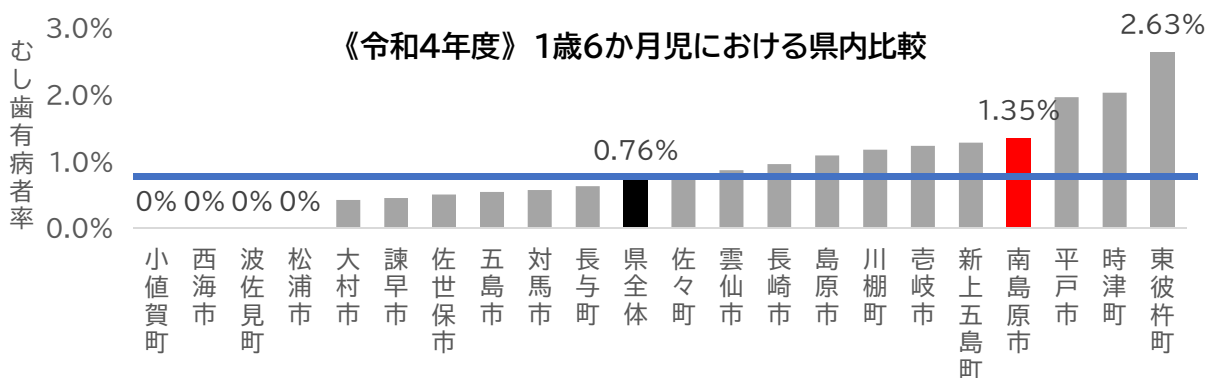
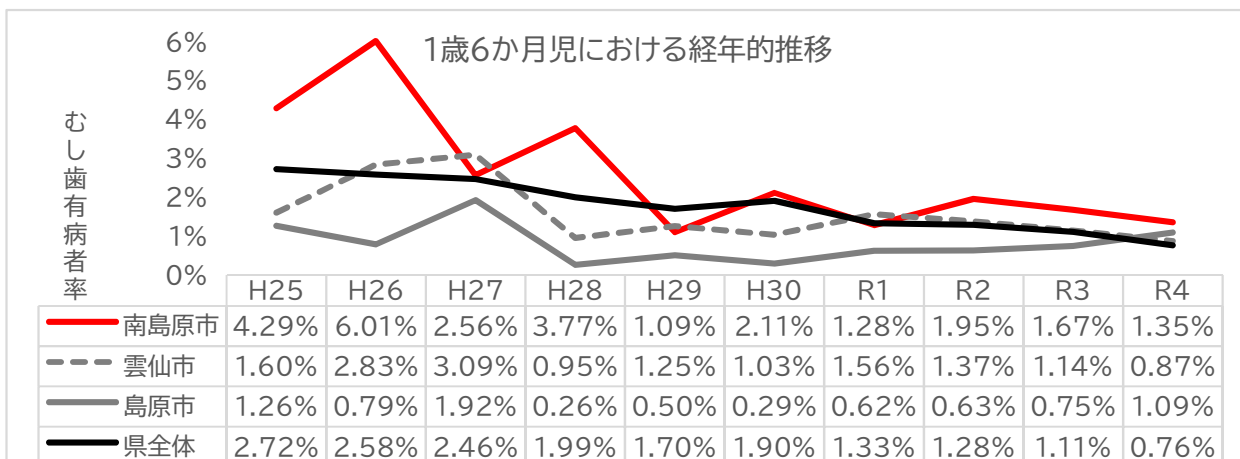
今後は、乳歯が生えそろう3歳までや、乳歯から永久歯に生え変わる時期の小学生に対して、糖質の上手なとり方やブラッシングの指導を含めた歯科保健の推進強化が必要です。



2 南島原市と他市町と比較しました

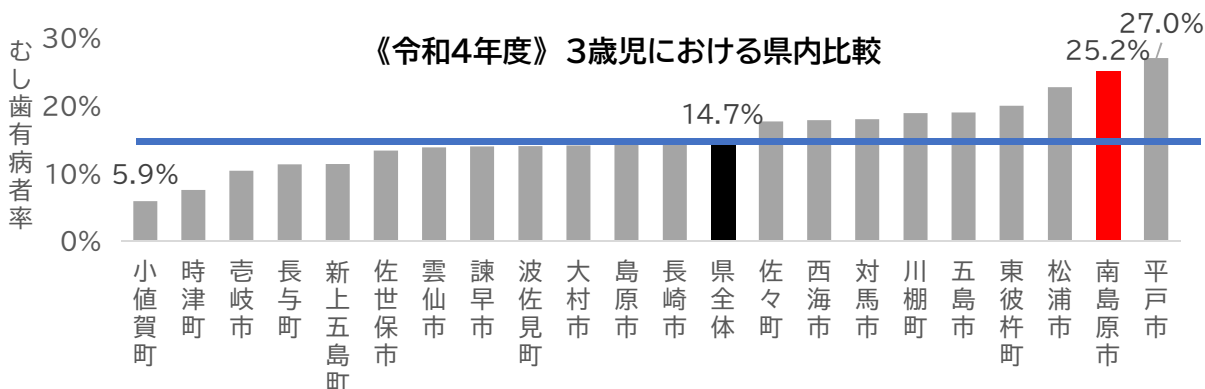
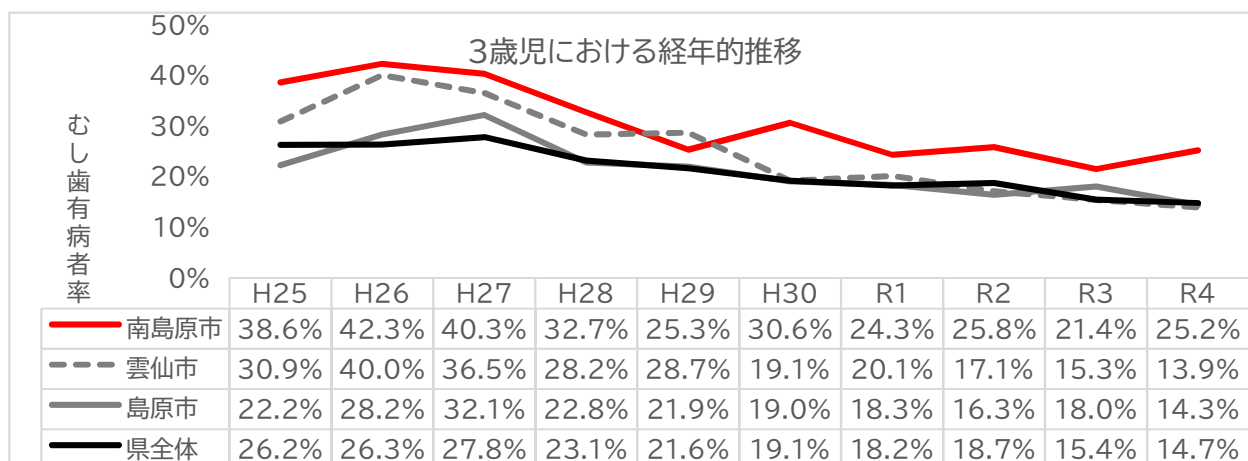
(1) 1歳6か月児

1歳6か月児のむし歯有病状況は、徐々に改善していますが、令和4年度の南島原市1.35%は県全体0.76%の1.5倍以上の差があり、県内順位もワースト4位でした。



(2) 3歳児

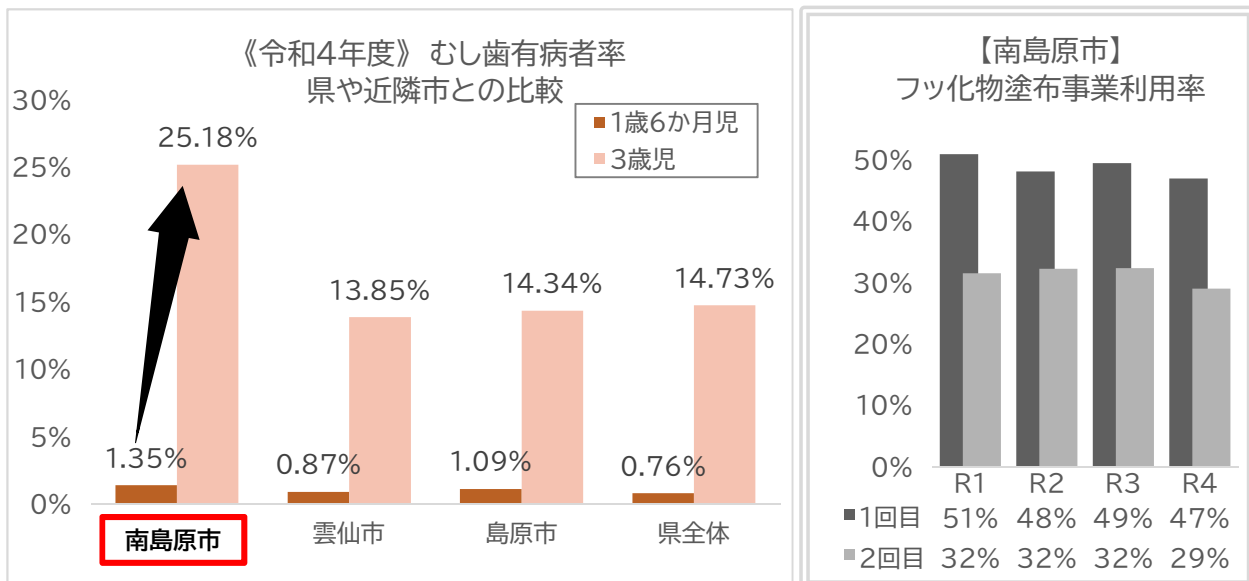
3歳児のむし歯有病状況は、改善してはいますが、平成29年度から横ばいです。令和4年度の南島原市25.2%は県全体14.7%の1.7倍以上の差があり、1歳6か月児よりも差が拡大し県内順位もワースト4位から2位に悪化しています。



(3) 1歳6か月児と3歳児

令和4年度のむし歯有病者率は、どちらの年代も県や近隣市より高い状況です。乳歯が生えそろう3歳までは、甘いお菓子や飲み物の制限や仕上げみがきの徹底など家庭でより丁寧なケアが必要です。

また、フッ化物洗口ができない1～3歳児を対象とした「フッ化物塗布事業」では、歯科医院でフッ化物歯面塗布と同時にブラッシング指導も受けられますが、利用率が50%弱と低迷していることも課題と言えます。



(4) 12歳(中学1年生)

12歳(中1)のむし歯有病状況は、徐々に改善しています。

ただし、平成25年度から令和4年度までの減少率[※]を比較すると、南島原市26.1%に対し、県全体33.4%、雲仙市39.5%、島原市70.9%と減少率が低いと言えます。

また、県内順位も平成29年度から令和4年度まで続けてワースト1位となっています。

※減少率:(H25-R4)/H25

